

第6回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和3年2月12日(金) 午後3:30～

終了 午後4:45

会 場 文化センター2階 中公ホール

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

ご苦労様でございます。ただいま教育長さんから、これまでのこの会議の話し合いの経緯、さらにこれからの方向性について、そして今日の話合いの論点についてお話いただきました。そして、これからですけれども、今年12月までとなりますと、10か月ほどしかあと残っておりません。その中でこれまでの話し合いをまとめていくという大きな作業が、我々には、あるのかなと思います。そういう点で、今日は本当の本質に迫る、教育のあり方そのものについて、皆さんご意見をいただければと思うのですけれども、今年1月26日、中央教育審議会の方から、「令和の日本型学校教育の構築を目指して」という、答申文が発表されました。それを見ますと、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置がとられたことにより、再認識された学校の役割というものがあると思います。その1点目が、学習機会と学力の保障。2点目が、全人的な発達・成長の保障。3点目が、身体的・精神的な健康の保障。とりわけ3点目については、新型コロナウイルスも含めて大きく変化して行くものかな、というふうに思っておりますが、ベースとして我々が考えなければいけないことの一つとして、一点目に挙げられています「学習機会と学力の保障」ではないかというふうに感じております。今日事務局さんから、これまでのアンケート等をもとにして、皆さんのお手元にあるような話し合いのテーマがされている訳ですが、とりわけ「新しい教育の対応」という中で、子どもたちにいかに学びを保障するか、こういった視点が、この統合問題にも大きく関わってくるのではないかなと思っております。これまではどちらかというと、学校の数、児童生徒の規模等、そういった数の面での論点で来たわけですけれども、是非、児童生徒一人一人が、どのような学びを保障されていくような学校体制を作っていくか、その点も含めながら、それに生徒指導や部活動、そして交通手段、まちづくり、施設づくりという点をどのように絡ませていくのか、その辺をもとにして、皆様方これまでと同じようなグループで討議していただき、そして後で意見交流を深めていただければと思っております。時間も押し迫っているようですので、皆様方の話し合い、よろしくお願いします。

4 協 議「子どもにとって夢のある魅力的な学校」

○A班 委員

A班の発表者です。私たちは、最初に一人一人の意見を張り付けてから、それに説明する形で、意見交換いたしました。5人全員そろって、考えていることは、やはり施設設備とか通学の手段などハード面に関しては、動線の配慮というのはプロの方がきちんと考えてくださって、よりよい学校施設を作って下さることを信じております。ただ、防災拠点として資材とか水とか食料と

かを備えて、いざとなった時には避難所になるような、備えができる施設を作っていたいただきたいと思います。そしてスクールバスについてですけれども、遠い地域の子どもたちが、通学時間があまりに長くて、勉強する時間ですとか、自分の好きな時間が取れないという場合がありますので、例えば本数を多くするとか、タクシーや循環バスなどを使うということももちろんですが、左沢線を使って陵西学区ですと土地も広いですので、そちらに学校を建てるのもいいアイデアかなと思っていますところでは。

そして、「新しい教育への対応」ですけれども、ICT機器をうまく活用して、在宅でも学習可能な環境を作ることによって、いじめや不登校にも対応できるのではないかと考えています。一人一台のタブレットを使って勉強を進める訳ですけれども、その使い方も、先生方がうまく使えないのでは困るので、やはりこそは、しっかり先生方にも習得していただいて、子どもたちにうまく教えてくださるように、みんなでICT機器をうまく活用することが大事だと思います。

不登校の支援ですけれども、例えば支援組織を公的なものとして連携して、認定して、うまく活用していただくことが、不登校になった子どもや発達障害の子どもをうまく対応していただいて、子ども一人一人が輝けるような学校づくりが、望ましいのではないかと思います。

部活動についても、現在、学校数児童数が少ないために、部活動ができない種目があったりします。スポーツの選択肢を多くとっていただくことが、子ども達1人1人が輝けるのではないかと考えました。

それから、公民館とうまく連携して、先生が「そこまでやらなくていいんじゃないか」というようなことは、全部コーディネーターの方が調整して学校の力になる、そして地域の子どもとして、地区の問題を子どもたちに投げかけて、子どもたちが自分の住んでいる地区をより良くするためにはどうしたらいいかということを考えてもらって、地域と学校をうまくつないでいけたらいいのではないかと思います。そして、一番私が熱弁してしまったことがあるんですけど、今、PTAの役割というか、力がなくなっているかなと思っています。例えば役員さんのなり手がなくなるとか、みんな「忙しい」とか「たいへんだ」という話ばかりになるんですけど、会長さん一人だけ大変だとか、そういうのではなく、一人一役という形で、いろいろ子どもたちのために、親たちが動くということで、子どもが自分が注目されているということを考えて、それが学力向上につながったり、スポーツでがんばろうとか、子どもたちが輝けるのではないかなと思っています。それから、小学校と中学校のことを今、考えていますけれども、今言ったPTAのことですとか、例えば、スマホやタブレットを持たせる問題点、便利な部分、危険な部分、それは幼稚園のお父さんお母さんからも話を聞いていただいて、幼稚園や保育園の時から連携して、寒河江市の子どもを育てるということで、やっていけたらいいのではないかと思います。そして、地域へ子どもたちの活躍ぶりを広く広報することによって、子どもたちが、自分たちが注目されるということで、輝ける子どもを目指していけたらなと思ったところです。以上です。

○委員長

ただ今のA班の発表に対するご質問ございましたらお願いします。私から1点ですけれども、今の発表の中で、「施設設備」では、「防災拠点」という言葉が出ました。そして最後の方では町づくり等の意見の中では、「公民館との連携」というふうなお話が出ました。そうしますと、やはり地域と学校というのは、ある程度密接な関係を保てるポジションでなくてはならない、こういうこ

とですかね。そうしますと、例えば「中学校 1 校案」でいくと、ずいぶん広域になりますよね。でも、中学校より小学校の方がより密接に地域と結びつかなくてはならない、という考えでよろしいのでしょうか。

(A班から、「そうです」という声)

○委員長

はい、わかりました。その辺も、特に公民館との連携については、後ほどアドバイスをいただきながら、他の事例なども加えてどうなるのか、お話をお聞きできればと思っているので、よろしくをお願いします。それでは、A班さんよろしいでしょうか。ありがとうございました。次にB班さんをお願いします。

○B班 委員

発表させていただきます。よろしくをお願いします。私たちもA班と同じで、それぞれが、区分けのところの意見を出したうえで、どういったことを考えて、この意見が出たのかということ話し合ったところです。

まず施設に関しては、いろいろ意見が出たんですけど、例えば、フリーデスクを設けて、月によって階を変えるような、いろんな学年の生徒たちが交流できるような場を設けてはどうか、という意見もありました。あと体育館については、保護者ですとか地域の方に見ていただくことでの、生徒たちの喜びというか、「みんなから見てもらえているんだな」という認識があるといいな、ということで、「できたらアリーナ付きなんかもいいね」なんて話も出ています。あと、地域の施設との連携があったらいいなということで、例えば学校の中の図書館が、地域の方にも開放されていて、様々な方が借りにきて、生徒たちとの交流が芽生えたらいい、なんていう意見も出されました。あと、先ほどA班からも話が出ましたけれども、私達の班でも、学校としては、避難所的な役割もあるので、そういった管理ができれば。体育館だけではなくて、それぞれの教室も避難所になり得ると。前回、豪雨災害でそういった事例があったということでしたので、教室も避難所として利用できるような施設としての充実が図られたらなあとか。例えば、シャワー室ですとか、あと子どもたち用のトイレしかないのであれば、大人用のトイレが必要だとか、あとバリアフリー化も図られたらいいのかな、といった意見が出されました。

次に、通学手段に関しては、子どもたちの負担をできるだけ少なくするということで、できるだけ短い距離での通学ができるような手段が考えられたらいいのかな、ということで、例えばスクールバスとコミュニティバスを併用するとか、運用の面でも考えられることはこれから出てくるのかなという意見が出されました。

次に、新しい教育への対応に関しては、やはり、個人、「個」を大切に、自分自身の人権を大切に考えられるような、生徒たちを導いていくような学習ができたらいいな、というような意見が出されました。あと、これから子どもたち一人一台タブレットが配付されますけれども、せっかく配付されるのであれば、海外との交流を図れるとか、そういった機会が生まれればいいかな、という意見もでました。あと、ここにも書いていますけれども、「古き良き日本文化への理解」ということで、やはり寒河江市の文化、それだけではなくて周辺の文化、例えば河北町の文化で

あるとか、大江町の文化、西川町の文化という所も、周辺の文化を学びながら、地域を大切にするという気持ちを育てていけたらいいのかな、という意見が出されています。あと、先ほどICTについて、A班からもあったとおり、英語ですとかICTについては、やはり専門家の方に来ていただいたりして、最先端の知識を子どもたちが得られるような教育環境があるのがいい、というような意見が出されました。

次に、生徒指導についてなのですが、たとえば「あの家庭の子どもだから仕方がないよね」みたいな、保護者同士の話で出たりする話題ですけども、そういったことがないように、保護者同士の理解を得られる機会を、保護者たちが学べる機会というのを充実させることができたらいいいのかな、という意見がありました。やはり、いろんな環境の子どもがいるということを、子どもとともに大人も知るといような教育環境ができたらいいいのかな、意見がだされたところです。

最後に、まちづくりなのですが、地域の方を先生として、例えば、高い技術を持った人が周りにたくさんいると思いますので、そういった人を先生として迎え入れて、いろいろ教えてもらえるような教育の機会と言うものがあってもいいのかな、という意見がありました。それが、イコール、コミュニティスクールになるのかもしれませんが、そういった、地域の方と一緒に関わりながら子育てできることがいいのかなという意見です。先ほど先生がおっしゃったように、小学校の時期が、地域を知ることの大切な時期だという意見があったので、そういった意味で、小学校の各年代で地域のことをいろいろ学びながら、育てていくというような意見が出されたところです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ただ今の発表に対するご質問ございませんでしょうか。A班とほぼ同様の意見。ということは結局、今もおっしゃったように小学校での教育、地域での教育これは一体化すべきだろう、このようなご意見かと思います。そうしますと、あまりに離れているということはどうだろう、というのは通学手段でも子どもたちの負担感を少なくするという所がそこに出ているので、先ほどの話で、通学時間があまりに長いのはいかなものかという感じですね。特に通学手段に関しては、私、よく他の地域で統合が進んだ時に感じたのは、学校と自宅それを点と点でつないでしまっているんじゃないか。スクールバスというのは、そういうような利便性はあるんだけど、子どもたちは自宅近くから学校まで、ただ移動するだけで、途中の状況が分からないのではないかと、というふうに感じる時があります。地域教育をやる場合、せめて点と点をつなぐ線ではなくて、面として何らかの形を形作っていかなければ、子どもたちがその地域に住む価値観というものは生まれないんじゃないかと感じております。そんな意味で、ただ今のご意見、多変参考になりました。ありがとうございます。話し合いの方は、後ほど個別に意見をお聞きすることにして、最後にC班さんお願いしたいと思います。

○C班 委員

C班です。よろしく申し上げます。私たちの班では、皆さんから出ていることに重なっていることもあるんですけど、やはり、施設については「避難所」ということもあって、そういう面で整備してもらいたい。ただ、ソーラーパネルとか、エコという部分なども含めて考えていただければいいのかな、というふうなことでありました。あとは、教室のスペースとして、従来型の

学校もあれば、オープンスペースの学校もある訳なのですが、これからの教室というスペースについて、どのような教室が子どもたちにとって良いのかという所も、これまでの教室とオープンスペースとがある中で、考えていかなければならないんじゃないか、というふうなご意見がありました。

あとは、西根小や三泉小では、このような形になっているようなのですが、学童と学校を一緒にの施設でできないのかということで、やはり子どもは、特に今年は雪の中歩いて行ったり、夕方、保護者の方が迎えに来るにしても、やはり学校内でそのような併設ができるような施設であれば、お互いに安全安心な部分があるのではないかと、というふうなことでした。

あとは、障害者が使いやすいような学校ということで、車椅子もそうですけれども、やはり部活や運動などでケガして松葉づえとか、車椅子を使わなければならないとかいう時に、使用しやすい施設というのはどういうものかというようなことも必要なのではないかと。まあ、タテに作っていくとか、ヨコに作っていくとか、そういう所もあるかと思いますが、ぜひそのような学校にしてほしいというふうなことでした。

続いて、通学手段については、やはりスクールバスうんぬんありましたが、この班で話されたのが、企業のバスを使えないのかというふうな構想です。特に飲食業のマイクロバスというのは、平日の朝昼は使わないバスですので、そのバスに委託をかければ結構な台数が回れるんじゃないかと、企業の協力を得ながらすれば、ハード面で、バスを揃えとかいう部分も大分軽減されるのではないかと、というようなことです。

次に、新しい教育への対応ということで、ICTなどはこれから随時進んでいくことでしょうけど、やはり古き良き日本の文化というものは、一番大切な部分ではないかなと。まあ、英語は喋れるのだけれども、いざ海外へ行くと、自分の国や自分の町の自慢ができない、海外ではそれがすごく恥ずかしいことなんだ、というような話がありまして、なので、自分たちの町を知る、そして、国を知るというようなことは、一番大切なことなのではないかというふうなことです。一方、寒河江市の近隣の学校との交流はどうだろうと。自慢大会とか、市外の学校との交流の中で、自分の学校の自慢話をすると。そうすると、学校の中で、自分たちの町を知ろうということで、なかなか分からないですけど、対抗意識という訳ではないんですけど、お互いに取り組めば、自分の町をよく勉強し出すのではないかと。そして自分たちの町が好きだ、というふうになれば、大学とかで外に出ていった人も帰ってくるという部分も含めて、自分たちの町の大切さを知るというふうなことが必要なのではないかというふうなことです。

あと、いじめ不登校という部分で、それぞれの子どもで学校に来なくなる理由というのは違う訳で、そんな中で、スクールカウンセラーの常駐というのはできないものかと。先ほど教育長がおっしゃったように、スクールカウンセラーの需要とかが結構高いということで、予約をしないとかなかなかできないということで、まあ、校数が少なくなれば、それだけ常駐しやすいとか、まあ常駐にはしないまでも、週1回から3回とかすることも可能ですし、1人ないし2人体制でするなんてことも可能なのではないかと。やはり子どもたちの相談だけでなく、保護者の相談も結構ある、ということで、スクールカウンセラーを常駐とか、置いていただきたいというふうなことでした。

続いて、スポーツの部分ですけど、やはり選択肢を増やすことによって、子どもたちがやりたいような部活動を作れるということで、生徒数が多くなれば、それだけいろんなことをさせら

れる、選択肢が増えると。今までだと部活、まあスポーツだけでなく文化部も含めて、作ることができれば、子どもたちが選べる、本当に自分たちがやりたいことができるような部活動になるのではないかと。ただ全員加入というような部分で、部活動に義務的に縛られることによって、本当にやりたいことが、できなくなる子もいるのではないかというふうな意見がありまして、まあ、義務的にするのか任意にするのかということは、いろいろ問題があるのだと思うのですけれど、まあ意見として、任意加入というのも必要なのではないかと、というふうな意見もございます。

「まちづくりとの連携」ということでは、先ほど申し上げたとおり、市外との交流、また小学校と中学校の交流なども必要なのではないかと。あと、退職した先生に色々教えてもらったり、サポートしてもらったりとかできるのではないかと。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ご質問ございますか。私の方から申し訳ありませんが、学童クラブと学校の一体化ということは、とても良い意見だと思います。山形市の方でそれが進んでいまして、市の方針で、学校の中に学童クラブを取り入れていると。これ、メリットとデメリットがあるんじゃないかという意見もあるんですね。つまり、子どもたちにとって、朝行って、学童が終わるまで、ずっと学校にいるというのはいかがか、という声もあるけれども。寒河江市の場合は、民間の学童クラブが、県内でも進んでいる訳です。ですので、その辺をどのようにリンクしてやっていくか。つまり、山形市の方なんかでは、場所は市でお貸ししますので、運営は学童クラブさんでやってくださいというような形なのかなと思います。これも市町村の方向性だなど。それから、まったく新しい発想として「企業バス」ですね。こういうアイデアもあるんですね。これなんか検討課題として、非常に大切なものだと思っております。それから近隣の学校との連携ということですが、近隣の学校というと、西川町、大江町さんなどある訳ですけど、西川町さんでは統合したものの、数が少なくなって、逆の意味の悩みがあると。もう統合しようがないんです。進んでしまっただけ。そうすると、近隣の学校とも何らかの連携調整が必要になってくるということをおっしゃっています。そうすると、西川町さんであれば寒河江市、それから河北町というような形になってくる。どうやって連携するのか。でもこれも一つの新しい方法としては、必要だろうなと思っています。

大変貴重な意見、それぞれのグループから出していただきました。最初、A班さんからありました「公民館との連携」という点で、県内の状況とかいろんなことがあるかと思えます。どうとらえたらいいか、アドバイスお願いします。

○委員

この委員に就任しまして、今年はなかなか出られなくて、前回丁度関東に行ってきましたので、翌日だったので出席を控えさせていただいたということでございます。

では、今いただいたお話のところですけども、まず、学童のことを申し上げますと、県の方では、できるだけ学校の方に一体化していこうと、施設整備についての補助金なんかもございます。朝から夕方までずっと学校で子どもをみよう、というのが、国県の方針ということになっている訳ですが、たぶん老舗の学童さんは「学校でも、家でもない」というところに価値を持っていることが、当然ある訳ですよ。ただ、耐震化診断等で学校の方が「空き教室をどうぞ」

ということであったり、統廃合した際の新校舎に、初めから学童のスペースを作るというのが、県内の動きだと見ております。というのはそれだけ通学距離が広がってくると、学童の利用率もまた上がるということにもなりますので、おそらくそのような整備になっているのではないかと考えております。

もう一つ、コミュニティセンターとの連携というところですけども、つまり学区とコミュニティセンターもしくは公民館がほぼ一致しているところは、一体的に学校運営と地域経営を一緒に行っているというケースが非常に多くなっています。例えば川西町であったり、長井市であったり、ほぼ学区とコミュニティセンターもしくは公民館がほぼ一致しているところは、その地域経営、地域運営に指定管理者制度というものを導入しています。つまり公的施設を民間組織に管理運営を任せるというしくみですよ。そういったものを導入して、地域の団体の方に運営をお任せすると。ですから、昭和の合併前の旧村とか、まちの範囲の自立化というふうなことです。そういうふうなことを進めている。そこを運営するのに関わった人たちがそのまま、学校運営協議会、つまりコミュニティスクールの委員になるということもあって、地域運営と学校運営が一体化しているというようなことが進んでいる所があります。コミュニティスクールというのは、学校運営協議会を設けていれば、地域と学校の連携がうまくいくかということ、そういう訳ではありませんで、学校運営協議会というのは、どちらかということと企画をする方の立場であるということになると思います。それで、実動部隊というのは、地域学校協働本部というふうなものを作ろうということで、学校と地域をつなぐ、地域学校協働活動推進員というコーディネーターを配置して、学校と地域の連携を推し進めていこうと、また施策的にも進んでいるところですが、やっぱり学校って入りづらいですからね。私も一応、学校の教員でしたから、雰囲気というか分かっていますが、たぶん、入りづらいんだろうなと思うんですね。ところが、学校と地域の連携がうまくいっているところは、コーディネーターの方が、ぜんぜん平気で職員室に椅子を置いて座っている。で、どんなことが必要かということや学校の先生方が全部相談しています。だから、「我々はどこまでできて、どこからできないんだ」ということを、はっきり伝えるんですよ。そうすると、地域の方の支援の仕方、「こういうことができないんだ」ということで、分かってくる。それで関わりを持ってくる。いろんな行事だけではなくて、すべての教科とか科目に地域の方が関わってくることが可能になってくることになりまして、言うなれば、学校に先生と児童生徒以外のおじさん、おばさん、おじいちゃん、おばあちゃんがウロチョロしているというのが、そういう所の学校の現状ということになるんですね。ということですから、いろんな人たちとの関わりが増えてくるし、学校を中心にして地域の再編を図っていく、という所においても、特に統廃合を進める際の、一つの提起になっているんだろうということですね。そういった学校に関わっていくことで、今まで違う学区だった人たちをつないでいく、ということでもさきに、つながり、学校を起点にしてそういった所をつないでいくと。ただ、うまくいっている所は、だいたい人口が減っている小規模な所です。ですので、次の統合を控えているようなところもあるというふうなところがありまして、こんなにがんばっているのに、だけど子どもは増えないということですので、これはもう一つ自治体のビジョンというものが大事だろうと思います。つまり、どういう子どもたち、というか後継者を育てていくのかということですね。そういったことを教育する上で、裁量というものが認められているので、学校である程度独自にカリキュラムを組んで、どういう人材を育てるか、それは、地域の方に関わっていただきながら、10年後、20年後、

50年後をにらんで、ということを共有していくべきだろうと思います。

コロナでぜんぜん調査に行けませんでしたので、研究休暇というのをいただきまして、長野と往復しながら調査をしているんですけど、その調査は、どんなビジョンを持っていたか、持っていなかったかというところですね、そういう所を見たいと思っていますが、ですから、教育は百年の計でありますし、寒河江市もしくは寒河江市の学校で、どういった人材を育てていくか、どういうふうにして戻ってきてもらうか、そこをきっちり皆さんで認識していくことが大事だと思います。あと、先生方は異動しますので、やはり学校のあり方を支えるというは、地域の方々だと。ですので、さっき言いました学校運営協議会や地域学校協働本部というのは、先生方が代わっても変わらないようにするという狙いもありますので、流れを維持するといいますか、そういったこともありますので、ぜひその実行化というのを図られるべきだと思います。すみません、長くなりました。

○委員長

ありがとうございました。最後の言葉が大切かなと思っています。地域も変わらなくちゃならない、先生方も変わらなくちゃならないと、こういうことが一番根本かなと思いますが、そういう意味での、学校というのはどうあるべきかということで話し合っていて、まあ、結論が出なくても、これからは、またそれを書き直しながら次回の方につなげていきたいと思っています。今日の話し合い、そして今のアドバイスなどを受けて、質問やご意見がありましたらどうぞ。それから、12月まで10カ月足らずですけれども、「こんなふうに進めていったらどう」というような話などもありましたら、出していただければと思いますが。よろしいでしょうか。事務局さん、次回はいつ頃の予定ですか。

○事務局（学校教育課長）

今年度は、今回の第6回までということで考えております。次回、第7回ですけれど、次年度の5月にできればというふうに考えておりますが、日程はまだ詰めておりませんので、なるべく早い時期にご案内を差し上げたいと思います。

○委員長

5月に、第7回目を行うということですので、次回からはおそらく答申文の策定の方に入るのかなというふうに思っています。諮問を受けた限りにおいては、それを答申しなければならない。それをどのような形で、答申するか。そのカーニングを早期にやっつけていかなくてはならないと思っています。よろしいでしょうか。そのようなことで来年度につないでいくということです。学校もどんどん変わろうとしています。この前文部科学省では、義務教育、特に小学校では、5年生6年生に教科担任制を導入するという方針を明確にしました。そういうふうなことが、少なくとも、今の学校体制、寒河江市の学校にも入って来るわけです。そして今年からタブレットも子どもたちにやる。一見良さそうですけども、そこにおけるいろんなメリット・デメリットがあるのかなと。そういったことも含めながら、これからの寒河江市の学校教育のあり方について、また検討していただきたいと思います。今日の話し合い、大変充実したものだったと思います。時間が若干過ぎましたことお詫び申しあげて、座長の任を降りたいと思います。あ

ありがとうございました。

終 了

参考

各班の掲示内容 「子どもにとって夢のある魅力的学校」

A班

1 施設・設備

- ・地元木材の活用
- ・防災拠点、資材の備蓄(水、食料)
- ・毎日楽しく快適に学べる
- ・いやされる
- ・ハード面の充実も大切だが、ソフト面（学校運営のあり方、指導方法、子ども自身が選べる教育活動）

2 通学手段

- ・できる限り、通学時間を短く

3 新しい教育への対応

- ・在宅でも学習可能な環境
- ・1人1台のICT機器の導入
- ・新しい教育に対応できる教員の育成
- ・地域連携コーディネーターの配置

4 生徒指導への配慮

- ・不登校支援、組織団体との公的連携
- ・安心、健康、学力向上
- ・小-小連携、小-中連携
- ・縦割り班の取組み
- ・放課後学習タイム
- ・親の関わり、PTAの役割、小中だけでなく、幼保から
- ・自分らしく、自分を発見できる
- ・1人1人個性を認めてもらえる

5 部活動やスポーツ少年団の改善

- ・選択肢を多くする
- ・部活の「半」地域移行

6 まちづくりとの連動

- ・公民館組織との連動
- ・地域と学校そのつながり方（必要に応じて、与えられる方向から求める方向へ）
- ・地域への働きかけ、地区の受け入れ体制、窓口
- ・地区で育てる、地域の要、地域の中心
- ・地域への広報
- ・コミュニティスクール+地域学校協働活動の実行化

B班

1 施設・設備

- ・教室の数、広さ、冷暖房、バリアフリー化
- ・フリーデスク、アリーナ付体育館、
- ・壁が全面ホワイトボード
- ・眺めがいい
- ・避難所としての役割
- ・図書館の充実
- ・地域の施設との連携、一本化

2 通学手段

- ・できる限り通学時間を短く
- ・通いやすさ(一定の通学距離)

3 新しい教育への対応

- ・寒河江市文化の学習
- ・地域の人から学ぶ授業、課外授業
- ・学区内のみでなく、寒河江市及び周辺も含めた学習
- ・海外生徒との web 交流、外国人講師による英語授業
- ・ICTは校外からの講師を
- ・個人を大切に、個人に合わせた学習。一人一人個別、能力にあわせて
- ・人権を大切にした教授方
- ・インクルージョン、一緒の教育
- ・ギフテッド教育
- ・やらされる学習から、自分でやる学習へ
- ・美術教育
- ・少人数クラス

4 生徒指導への配慮

- ・保護者の学びの場
- ・学年を超えた関わり
- ・不登校、個々の子どもに合わせた対応、家庭教育もあり

5 部活動やスポーツ少年団の改善

- ・社会体育、文化施設との連携
- ・部活動の社会教育への移行
- ・メインコーチは外部、監督者・サブコーチは先生

6 まちづくりとの連動

- ・地域の特色を活かす
- ・地域の方を先生にしたクラブ活動
- ・地域で育ててもらふ重要性

C班

1 施設・設備

- ・先生の負担も考える
- ・オープンスペースのメリット、デメリット
- ・ソーラーパネル設備
- ・ソーラー、クーラー、避難所を兼ねる
- ・学童保育を併設
- ・障がい者も受け入れられる施設
- ・職場体験 小中

2 通学手段

- ・学童の子のお迎え事情
- ・企業のバスを使うのはどうか(料亭とか)
- ・地域のバスとの連携
- ・企業のバスを使う
- ・高畠町中学校のバスを参考にしてください

3 新しい教育への対応

- ・町の良い所を探して自慢する
- ・統合後に心配。タブレットで相談
- ・寒河江の良さ
- ・地域を知る。日本文化への理解

4 生徒指導への配慮

- ・スクールカウンセラーの常駐

- ・障がい者にも優しい学校のつくり
- ・いじめに対するの受け取り方、対応の方法
- ・コミュニティスクールを活用する

5 部活動やスポーツ少年団の改善

- ・選択肢を増やす

6 まちづくりとの連動

- ・地域のお年寄り、企業の方々
- ・退職した先生に手伝ってもらおう
- ・近隣の小中との交流